

2022.06.26. 「サタン」すでに敗北した敵 Mac 牧師

「イザヤ書 14 章」12 節から、神の御言葉をお読みします。

イザヤ 14

12 明けの明星、暁の子（ルシファー）よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。

13 おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。』

14 （私は）密雲の頂に上り、（私は）いと高さ方のようになろう。』

15 だが、おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる。

今朝の私たちの学びに主が祝福が下さるよう祈りましょう。

天の御父よ。今朝、あなたを非常に必要とし、あなたのもとに来ました。あなたの民のために、私のように壊れた器がメッセージを提供するため、あなたの聖霊の御力が必要なのです。主よ、私もあなたの民です。私たちが、あなたの真理の御言葉を心に留められるよう、私をも祝福してください。今日、ここに示されるすべての御言葉があなたからのものであり、ふさわしいあなたに、すべての栄誉と栄光が、帰されますように。あなたが今日、私たちになさろうとされている事に感謝します。イエス・キリスト、イエシュアの、力強い御名によって、祈ります。アーメン。

ご着席ください。今朝の第二礼拝の説教のタイトルは、「サタン/既に敗北した敵」です。

この学びを始める前に、私がサタン宛に書いた手紙を読みたいと思います。時には読む価値があります。なのでお付き合いください。

「サタンへ。私はおまえが大嫌い。—(笑)— 私の内におられる方はこの世にいる者より偉大です。主イエス・キリストがおまえを強く非難され、地獄は、おまえのため造られたのだ。心から軽蔑の念を込めて。マックより。」—(爆笑・拍手喝采)—

何か？ 皆さん当然、サタンが憎いですよね？ 邪悪な者に対する正義の憎しみです。

さて、本題に戻ります。このイザヤ書の御言葉は、確かに、サタンが究極の敗北を遂げる者として描かれています。私たちクリスチャンは、サタンが既に敗北していることを認識しています。私たちは、キリストにおける私たちの立ち位置から、それが分かっています。しかしそうであっても、サタンはまだ非常に活発であり、その終わりが近づくとつれ、さらに活発になるでしょう。ですから私たちは、この敗北した敵が、戦いなしに出て来るわけではないのを、本当に認識する必要があります。もう一つ理解しなければならないのは、私たちは、自分自身で勝利があるわけではありません。その勝利は、キリストのものであり、キリストだけにあります。主と、その完了された御業のおかげで私たちに勝利があるのです。

さて、技術的なことで、技術的すぎるように思えるかもしれませんが、その必要があります。私たちがそのことを忘れてしまうからです。何度も聞いたことがあるのは、『「私は悪霊を叱る。」そして次に進む。』うお～、あなたが叱るのですか？ 本当に？ へえ、そういう事とは知りませんでした。私が知っている限りでは、「主が叱責されるのです。」特に聖書に関して、技術的なことが必要です。聖書文脈がどう語っているかを知る必要があります。これは神の聖霊による神の御言葉です。もし私たちが神の御言葉について注意深く、正確でなければ、私たちは、聖句を文脈から切り離して引用し、私たちの誤解という弱点を突かれ、敵に有利な立場を与えてしまう事があります。そして、敵が私たちに対してそれを利用し、御言葉を疑わせることができるのです。なぜなら、私たちが考えていたようにならないからです。分かりま

すか？ 私たちは、神の事柄について、技術的に注意せねばなりません。気をつけないと、下手な証人になりかねません。祈りながら今日の学びに入ります。私たちが理解し、それがどのように展開されるかを示す必要があります、そうすれば自分自身を守れます。敵や、これらの闇の力との戦いは現実です。これは現実です。「ヨハネの福音書 17 章 15 節」、十字架にかけられる前のイエスの私たちへの祈りが、非常に物語っています。神の御言葉を読みます。

ヨハネ 17

15 わたしがお願ひすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、“悪い者”から守ってください。

分かりますか？ 私たちはまだこの世にいます。だからここは悪の権力下にあります。究極の勝利は約束されていますが、しかしこんにち、日ごとに戦いは激しさを増しています。ちなみに悪とは、正にそのまま、徹頭徹尾（てつとうてつび）悪です。サタンと悪霊たちは、イエス・キリストを信じる者に取り憑くことはできませんが、彼らは、私たちのミニストリー、教会全体、生活、仕事、全てにおいて、大混乱を引き起こせます。彼らは、クリスチャンを麻痺させられます。それが彼らの目標の一部です。私たちクリスチャンも、気がつけば悪魔の働きをしていることがあるのです。神の御心ではなく、悪魔の意志に自分を合わせてしまうのです。それは問題です。イエスが、私たちが悪から守られるよう祈られたことが、全てを物語っています。私たちが住んでいるこの世で、決して自己満足に陥ってはなりません。そんな余地はありません。そして再度、悲しい現実ですが、この世はサタンによって組織的に所有され、運営されています。ええ、私たちの神は主権者です。そうです。真の生ける神が全てを完全に支配しておられ、その神の英知によって、私たちには分からない崇高な目的のため、物事がそうなることを許しておられます。私たちは過度に心配する必要はありません。なぜこうなのか、あんなのかと、考えすぎる必要はないのです。そうではなく、私たちが関心を持たねばならないのは、私たち皆を引き上げられるお方の「唯一の方法」です。私たちの関心はそこにあるはずです。ですから、祝福された希望を待つ間、私たちは皆やるべきことがあります。私たちの仕事は、サタンに対抗することです。私たちはその仕事に、真剣に取り組むべきです。そこで、主のお許しを得て、サタンに関連するいくつかの名称と性質を見ます。それが、悪魔の策略に対抗するための聖書的な方法を教えてくれると信じます。また、聖書で語られる通り、神の御霊によって活動することの重要性を理解できるよう祈ります。それがどのようなものであるかを確認する必要があります。それから、サタンが実際に敗北した敵であることを神の御言葉から導き出します。私たちは皆、そのことを毎日サタンに思い出させねばなりません。毎日です。全く恐れる必要ありません。サタンに残された日々は限られています。それを彼に知らせましょう。第一礼拝もそうでしたが、普段するような、いわば聖句の解説はしません。このトピックの学びの、背景として使います。では、イザヤ書 14 章 12 節に戻ります。神の御言葉を読みます。

「明けの明星、暁の子（ルシファー）よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。」

私がこの節を引用するのは、今朝、サタンに関して私たちが何度も聞いたことのある名前、「ルシファー」に注目したいからです。そして、この神の御言葉で、彼は「暁の子」とも呼ばれています。このルシファーという、ラテン語訳で「暁の子」というフレーズが組み合わさって、サタンが天国で持っていた地位について、いくつかの結論が分かります。ルシファーという名前は、ヘブライ語で、「明けの明星」「三日月」という意味なのは、ほとんどの方がご存知だと思います。それ自体も学びの対象となり、様々な学びがで

きます。しかし、言っておきます。三日月には気をつけてください。皆さんが、「お～！」と思うのは分かります。そういうのもありますが、今朝はそのことには触れません。ラテン語では「光をもたらす者」と訳され、ルシファーという名前になります。「輝く者」の略というのが定説です。それなら納得ですね？ 本当にそうなんです。聖書を正確に見ると、「輝く者、ああ、なるほどね。」ヘブライ語に「ヘレル」という単語もあり、これはルシファーを意味します。この単語はヘブライ語の語源「ハラル」に由来し、「称賛」と訳されます。私たちが「ハレルヤ」と言うとき、ヘブライ語で「ヤハウエへの賛美」を意味します。しかし、声だけの賛美だけではなく、手拍子と雷鳴と一緒に、「ハレルヤ!!!」そういう賛美もあります。またルシファーが、御使いの中で賛美（隊）の最高位にあったとされるのは、このような理由からです。エゼキエル書にもあります。魅力的な記述です。聖書に基づいて、それが彼のあらゆる面での特徴なのは間違いないのですから、心に留めておく必要があります。それが御言葉から明らかです。差が歴然なので、皆さん自分で調べることをお勧めします。この既に敗北した敵は、こんにちも教会に対して、かつて持っていたその立場を利用しています。これから読む内容と同様、これら全てを知ること、私たちは御言葉の光と比較し「世の光であるイエス」と「輝く者、この偽りの光」を見分けることができます。容易に、その偽物を見抜くことができます。実際「第二コリント人への手紙 11 章」14～15 節に、そのことが記されています。神の御言葉をお読みします。

II コリント 11

14 しかし、驚くには及びません。サタンでさえ光の御使いに変装します。

15 ですから、サタンのしもべどもが義のしもべに変装したとしても、大したことではありません。彼らの最後は、その行いにふさわしいものとなるでしょう。

私たちは、この重みを理解していますか？ そうであることを祈ります。何世紀もの間、この敗北した敵は、手下と共に霊の領域に姿を現し続けています。私たちが知るべき重要点は、輝く者、偽りの光は教会と、教会を名乗る人々のも含めます。「この人たちは、いったい誰ですか？」おお、よくぞ聞いてくれました。これらは指導者、いわゆる牧師、その多くが有名な教会を牧しており、神からだど主張しながら、異なる光を放ち、異なる福音を説いています。それが彼らの正体です。気持ち悪いです。そして、そういう自称教会の多くが、礼拝音楽をメインの呼び物にしていることに留意ください。何度こんな会話をしたことでしょう。

「どこの教会に行っているんですか？」「どどこです。礼拝音楽が大好きで。」「そこの礼拝音楽が大好きで。」その意味は分かるんですけどね。実は、危険信号です。彼らの礼拝(音楽)は決して神の御言葉を説きません。はい、違います。彼らは、イエス以外のあらゆる名前を歌います。彼らの音楽は世俗的で、彼らの教義の欠如とよく調和します。どうにかしてこの敗北した敵に、忘却の彼方まで子守唄を聞かせるのでしょね。このような教会の中には、45 分間コンサートを開き、その後 5 分間語るのが、神に関すること以外。なのに、「私たちは礼拝音楽が大好きです。」って？ 「今日も教会で盛り上がりましたよ！」「でもなぜ汗をかいてるの？」「踊ってました。」「はあ～!？」

音楽で催眠術にかかり、サタンの手下たちが入ってきて嘘を吐き始めても、音楽でハイになっているので、あなたは気づかない。それが事実です。そして、そのようなミニストリーに没頭すればするほど、離れることが難しくなります。そして、あなたは、ルシファーとその手下の忠実な僕となります。忘れないでください。これは教会について話しています。ルシファーは、別の福音を輝かせられることは知っています。彼は、神の全てを利用して、自分が崇拜されるようにします。それは偽造です。教会として、私た

ちはこの事実に気づく必要があります。エペソ人への手紙 5 章 15 節～20 節に、この御言葉が記されています。お読みします。

エペソ 5

15 ですから、自分がどのように歩んでいるか、あなたがたは細かく注意を払いなさい。知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、

16 機会を十分に活かしなさい。悪い時代だからです。

今がそうではないですか？

17 ですから、愚かにならないで、主のみこころが何であるかを悟りなさい。

18 また、ぶどう酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。

19 詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、(だれに向かって?) 主に向かって心から賛美し、歌いなさい。

20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。

これは、すべての教会が従うべき最も優れた手引き書であり、特に礼拝に関するものです。愚かにならず、主の御心を知り、神の御霊に満たされて歩み、"イエスの御名によって"感謝を捧げながら、主と霊的に結びついた歌や賛美歌を歌う。それが礼拝です。しかし、私たちは分かりますか？ そこに何が見えますか？ もし、音楽でハイになるミニストリーなら、あなたは騙されています。これはすべて教会に向けたものですが、考え違いしないでください。この偽りの光は世に蔓延していますよ。このことは、新しい啓示や何か新しい光を受けたと主張するカルトやその他の宗教の宗派を見れば、はっきり分かるはずですよ。私たちは、クリスチャンとしてこのことをよく知るべきです。大きな危険信号です。もう一度言いますが、それは悪魔からです。間違いなく悪魔です。彼らに言いなさい。神が私たちの道に置かれたのは悪魔だと。「愛はどこにあるの?」と言われることがありますよね。それが私の質問です。「愛はどこに?」分かっている何も言わないのなら、真の愛はどこにあるのですか。このような団体の話をたくさんしました。みんな悪です。私たちは世を裁くのではなく、彼らの悪を暴くことだと分かっています。誰それが何か新しい光/イルミナティと言うたびに、ちょうど、フリーメーソンの勉強をしたところですよ。同じ扱いです。どれも同じようなものです。彼らは、何らかの方法で自分たちを輝かす知識があって、それは彼らのもの、彼らに加わるものでしかありません。たとえ彼らが何らかの、今まで知られていなかった新しい知識があったとしても、それは悪魔のものです。悪魔的ですよ。悪魔の教義です。しかしどれも問題ではありません。「箴言 21 章 30 節」神の御言葉をお読みします。

箴言 21

30 どんな知恵も英知も、はかりごと、【主】の前では無きに等しい。

新しい知識は、すべて流行のガラクタです。ですから、悪魔たちが、どんなものをこの世に提供し続けようと、それが、真の生ける神の御前に立ちあがることはできません。あなたの運命は、もしこのガラクタに従うなら、あの輝く者：敗北した敵、永遠の炎と永遠の闇と同じです。さて、サタンにつけられた 2 つの名前も見てください。この 2 つ共、「ヨハネの福音書 8 章 44 節」にあります。イエスが語っておられます。神の御言葉を読みます。

ヨハネ 8

44 あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。

皆さん、付いて来ていますか？ ここで組み合わせるとサタンは、殺しの偽りの父、と呼ばれています。考えてみてください。人殺しの偽りの父。そして、私たちはそれが事実であることを知っています。このことは、このあとの御言葉で分かります。イエスがユダヤ人指導者に向かって仰います。「これがあなたの正体です。」そして、彼らが何をしたと思いますか？ イエスに嘘をつき、殺しました。彼らは天の御父を信じる代わりに、偽りの父を信じたのです。そして、敗北した敵の影響が、まだどれほど強力であるかを私たちは認識する必要があります。この名前に耳を傾け、その意味を考えてみてください。「偽りの父」ゆっくり言うとか何か気づきませんか？ 完璧な嘘をつく方法を、一番理解しているのは誰だと思えますか？ その父です。「なるほどね。サタンは偽りの父。その王国はどこにあるのですか？」すみませんが、それって地上ではないですか？ ここ墮落した世が、彼の現在の王国です。嘘は、世から来ます。真理は、御言葉から来ます。この世で語られるものはすべて、聖書によって吟味せねばなりません。これが私たちのすべきことです。偽りの父が、この嘘の王国を支配しています。そして、彼は殺人者です。命を顧みません。こんにち、そのような光景が繰り返されていますよね。彼らは決定を下します。誰もこのことを読んで意味を理解しようとしません。ロー対ウェイド事件、何のことか分かりますよね？ もし、あ、あ、気をつけなければいけません。ユーチューブで今配信しているので。つまり、ただ... もしそれが許されるなら、それに固執する人々は、人を殺したり、子どもを殺したりし始めるように思えます。私は憎みます。その憎しみが沸々と高まっています。偽りの父は、始めから人殺しです。手下たちも訓練されています。彼らはクリスチャンに憑りつけませんが、私たちの思考に考えを入れられます。なぜか？ 思考は、神が私たちとコミュニケーションを取る場所だと彼らは分かっているからです。敵は非常に巧妙で、最も破壊的です。思考を攻撃することによって。そして世では、悪魔がいかに容易く人の思考を操ることができるか分かります。保護するものはありません。皆さん聞いてますか？ 保護はないのです。今世紀最大の悪魔の嘘の一つを紹介しましょう。悪魔は、性別が2つ以上あることを全世界に信じ込ませています。ですから、嘘がどこから始まるか考えてください。思考の中からです。なぜなら、自分たちの間を見渡せば、それが真実でないことがはっきりと分かります。でも（思考が）守られていないと、偽りの父の言うことを何でも信じてしまうのです。これは霊的な戦いです。この種のガラクタを信じる人々の思考や心に、地上のどんな理屈も通じません。霊的な戦いです。動画やブロガー、人について言及するのは好きではありません。言及すると、その人やその人のすべてに関連づけられるからです。そうしたいのではありません。でも、最近公開されたマット・ウォルシュという人のドキュメンタリーには触れておきたいと思います。ご覧になったかどうか分かりませんが、『女とは何か』というタイトルでした。私たちがその質問をすること自体、全くもって馬鹿げています。それはともかく、彼はこの動画ドキュメンタリーをしました。それがどんなにうまく出来ていて、彼がどんなに妥当な指摘をしたとしても、神は、そのドキュメンタリーの一部ではあられません。しかも彼は、意図的にそのようにしたと言及しました。OK、使い物になりません。よく言ったとしても。確信させるのは聖霊です。好きなだけ理屈をこねればいいです。それが神の御言葉です。聖霊にさせていただかなければ、どんな証拠も会話も、人々の心と思考を一新するのに十分な確信にはなりません。すると彼らは、神が私たちが神の似姿で創造されたことを知るに値します。主は御自分に似せて、彼らを男と女に創造されました。以上です。一拍手一

それが全てです。神を褒めたたえます。それが、主がなさったことです。しかし、なぜか私たちは、霊的な戦いを肉的な武器でしがります。「では、この本をお見せしましょう。この…」何です？違いますよ。それが聖書でないなら捨ててください。私たちは戦いのさなかであり、神の御霊によって戦う必要があります。これは、使徒パウロがコリントの信徒に向けて書いたもので、「第二コリント人への手紙 10 章 4 節 5 節」に収められています。聞いてください。「霊的な戦い」を解した上で、これを読んで欲しいのです。そうやって読む必要があります。神の御言葉をお読みします。

II コリント 10

4 私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。(聞いてください)

5 私たちは様々な議論と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち倒し、また、すべてのはかりごとを取り押さえて、キリストに服従させます。

違いが分かりますか？ ほとんどこれを読むと、特に 5 節の後半、私たちの思いをすべて、キリストの従順へと持っていかなければならないスタンスです。そうすべきです。誤解しないで下さい。だから、それ自体は問題ないのです。その心構えは、持っていて良いのです。しかし、ここでこの聖句の直接的な文脈をみてみましょう。技術的なことは、何か意味があります。忘れないでください。私たちが話しているのは戦いについてです。私たちの武器は、神の霊的武器であり、それは強力です。それが、世の高ぶりの精神を引きずり降ろしたのですよね？ 神の知識に敵対する彼ら自身のこのような精神を。それが要塞です。あらゆる高ぶりです。ですから、これは教会についてだけ語っているわけではありません。あらゆる高ぶりです。これは、神の知識に敵対し自らを高ぶらせるあらゆる者のことです。この霊的な戦いにおいて、私たちは神の強力な武器を持っているので、そういう思考を、すべてキリストの従順で捉えることができるのです。皆さん、ついてきてますか？ 例えば、神は、誰かが神の御言葉に敵対するコメントをするための扉を開かれます。私はそのような要塞を取り払い、あなたの思考をキリストの従順に導くため、神の御言葉であなたに立ち向かいます。こうして人の心は変わっていくのです。私たちの武器は、議論を打ち砕くために使われるべきです。そしてもちろん、これには見識力と機転と、あらゆる謙虚さをもって神の御言葉の御力を損なうことなく、臨むことが必要です。「第二テモテへの手紙 2 章 25 節 26 節」、神の御言葉をお読みします。

II テモテ 2

25 反対する人たちを柔和に教え導きなさい。神は、彼らに悔い改めの心を与えて、真理を悟らせてくださるかもしれません。

26 悪魔に捕らえられて思いのままにされている人々でも、目を覚まして、その罠を逃れるかもしれません。

この違いが分かりますか？ 積極的な取り組みが必要です。すべての人は、主の御言葉を聞く必要があります。それは、私たちが使いこなすべき最も重要な霊的武器です。さて、神の武具全体についての学びをするつもりはないですが、完全な武具は、私たちの武器であり、それを全て持つべきだと知らねばなりません。サタンとその手下が数々の嘘を利用するという話の原点に戻ると、それらの嘘に惑わされ、攻撃から守るために、救いの兜を持たねばなりません。心がそこにあるからで、それは重要です。御霊に満ち溢れているのか、ガラクタに満ち溢れているか。使徒パウロは、サタンの欺瞞と嘘に伴う力を知っていました。再度「第二コリント人への手紙」11 章 3 節 4 節、神の御言葉をお読みします。

II コリント 11

3 蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。

4 実際、だれかが来て、私たちが宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが受けたことのない異なる霊や、受け入れたことのない異なる福音を受けたりしても、あなたがたはよく我慢しています。

心が弱い。兜が外れると、そうなったら、私たちの証はどれほど効果的でしょうか。嘘は、サタンのおもな武器の一つで、私はそのためにほとんどの時間を費やします。そしてその欺瞞は、教会の中からも外からもやって来ます。聖書は、私たちがまだ戦いのさなかであることを明確に示しています。しかし、多くのクリスチャンが御言葉で戦おうとしないのは、とても悲しいです。もしあなたが、何も言わないのなら、何か間違っています。いつも何かを言っているのも、何か間違っているかもしれません。見極め。

しかし、私は逆に失敗します。話さないより話すので。なぜなら、主の御言葉は決して空しく帰らないなら、私はそれを信頼できます。しかし、それは語らないとなりません。御言葉によると、聖霊が私たちに事を思い起こさせてくださいます。ええ、そもそも御言葉を見るのを覚えていればの話ですが。なぜ、聖霊がこのことを私に思い出させなかったのか分かりません。「それを見たことありますか?」「いいえ。」

「じゃあ、どうやって覚えてるんですか?」神の御言葉に関するに、一方的な人が多すぎます。神は確かに私たちの前を行かれますが、私たちが神に従い、神の御言葉に堅く立たねばなりません。そうしないと、多くの人々が隠れ、騙されてしまいます。「では、どうすればこれを防ぐことができるのでしょうか?」お～、答えは簡単です。私たちは、神の御言葉に触れる時間を作る必要があります。なぜなら、嘘の父とその悪魔は、私たちの思考に入り込もうと、多くの時間を割いていると考えた方がよいです。私たちは本当に自分自身に問わねばなりません。私たちはどれだけの時間を神の御言葉に費やしていますか?

いざという時に聖句を引用できていますか? 私たちは、聖霊が、「私たちがこれを読んだから」神が仰られるような反応ができるように、私たちの思い出させて下さっていますか? どんな状況も、神の御言葉に記されているのです。神の御言葉を知れば知るほど、悪魔と戦い、打ち負かすことができます。跳ね返せます。結局、神の御言葉が全ての答えです。しかし私たちは、肉的な性質があるので、霊的な戦いに肉的な武器を使いたがります。私たちは、自分たちのやり方でしたいのです。そして、失敗すると文句を言うのです。「分からないも～ん。」あるいは、敗北して尻尾を巻いて逃げるかですね。サタンとその悪魔たちは、お～彼らはそれを知っています、私たちの気質ですから。自分たちのやり方でしたいと思うのは、高ぶりがあるからだ彼らは分かっているんです。そういうことです。そして、サタンは高ぶりを実によく知っています。それが彼の墮落の原因です。高ぶった御使い。その御言葉に戻ります。

イザヤ 14

13 「おまえは心の中で言った。『私』は天に上ろう。神の星々のはるか上に『私』の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。

14 「密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。」

15 だが、(さあ来ますよ) おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる。」

どんなときでも高ぶりが入ると、一番低い場所に来ます。そしてそれは、霊的な高ぶりも含みます。サタンは私たち、誰でも、私も含めて、私たちが高ぶらせることができます。そして、その崩落は激しいでしょう。主の御言葉に留まってください。サタンは高ぶりを嗅げることができるので、謙虚に祈り続けまし

よう。高ぶりを嗅ぎつける話になると、彼はそれ以外のことも嗅ぎつけます。これは、サタンに与えられたもう一つの名前と結びつきます。「第一ペテロの手紙 5 章 8 節」、よく知られている箇所です。神の御言葉をお読みします。

I ペテロ 5

8 身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

「敵 (adversary)」という単語が出てきますね。しかしこの単語は、旧約聖書ではしばしば異なる意味で使われているので、もう一度、少し区別して考えたいと思います。これを理解すると、より鮮明な絵が描けるようになります。だからこの区別をしたいのです。例えば、

民数記 22

22 しかし、彼が行こうとすると、神の怒りが燃え上がり、(ここに書いてあります) 主の使いが彼に敵対して道に立ちはだかった。

この単語は民数記 22 章 22 節の、バラムがロバに乗ったという記述で、ヘブライ語で「敵対者(opponent)」と訳されています。ですから、話を戻すと、神がバラムの敵対者なのが見えるので、納得行きます。その「敵対者 (opponent)」分かりますか？ OK。文脈で納得です。「第一ペテロの手紙 5 章 8 節」の「敵 (adversary)」という単語は、ギリシャ語の「敵対者 (opponent)」とは訳されませんが、似た意味があり、私にとっては、悪魔は細部に宿るので、ここでいう「敵 (adversary)」は何を意味するのか？「告発者 (accuser)」です。この違い分かりますか？ この節の文脈の中で、どのようなイメージが描かれているのでしょうか。というのも、この視点で読むと、こう聞こえるからです。

I ペテロ 5

8 身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵=「告発者」である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

そして、私たちの告発者が探し回っていることに留意ください。走らず、跳びはねず、ハイテンションでもなく、歩き回っています。J.D.牧師がよく話していることです。敵は私たちが研究しているのです。全ての悪魔はこのように訓練されており、疑いなく、私たちの弱点を突くために研究し、私たちが告発する準備をします。皆さん、ついて来えますか？ (会衆：はい。)
「告発者」

質問は、敵が私たちの何を告発しているのか？ お～、また聞いて下さり嬉しいです。罪です！ まさにそれを探し回っています。そして手下が全員、彼に報告するのです。で、どうなると思います？ 私たちは告発されます。私たちは本当にこのことを理解する必要があります。その悪魔たちは、特に、私たちの罪に目をつけるよう派遣されています。なぜなら、敵が戦術的に優位に立てるのは、罪という枠組みの中だからです。ということです。敵は、そのような告発を携え、そして私たちに囁きます。

「おお自分を見てみろよ。自分のことをクリスチャンと呼ぶくせに、これと、あれと、それをしたのだ。」頭に考えを置くのです。だから私たちはそれを守らねばなりません。使徒パウロは、このことをよく知っていました。覚えていますか？ 自分のことも語っています。もちろん、ここにいるペテロもです。彼に何があったのでしょうか？ 神の御言葉を信頼する代わりに、イエスと一緒にいることを告発されたとき、彼は何をしたのか？ 彼はキリストを拒絶しました。それは敵だったのです。敵は両側から仕掛けてきます。私たちはそれに気づく必要があります。ある時点で、サタンとその御使いたちが、もう決して私たちが告発することができなくなるのを神に感謝します。しかし、まだそうになっていないので、このことを

しっかり認識したいと思います。「ヨハネの黙示録 12 章 10 節」、神の御言葉をお読みします。

黙示録 12

10 私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。」

留意ください。敵はこれほどまで、私たちを告発するため努力しています。敵は昼も夜も働いています。休息を言及されることも、要求されることもありません。これが、敗れた敵とはいえ、私たちがまだ相手にしている者です。ここは彼の暗黒の王国であり、これが全てです。では、どうすれば告発を乗り越えられるのか？ そう、私たちは、主である救い主が私たちを救ってくださったことを知り、揺るぎない信仰を持たねばなりません。私たちは贖われたのですから、もう罪に定められることはありません。(ローマ 8:1 参照)

私たちは、主の御言葉に立たねばなりません。私たちの生ける御言葉、イエスへの信仰は、敵からのあらゆる告発を乗り越えることができます。罪が私たちの人生に入り込んできたとき、私たちは自分の人生のためにさらに主を求めねばなりません。「ヘブル人への手紙 10 章 22 節 23 節」、神の御言葉をお読みします。

ヘブル 10

22 心に血が振りかけられて、“邪悪な良心”をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。

23 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。

おお！そうでしょ？「好きなだけ告発してくればいいさ。私は神の御言葉に立ちます。日々、神の御顔に寄り添います。自分が何をしたのか分かっているよ。自分がおかしいは分かっている。お前（サタン）のせいだ！！！」—(笑)—

そう、私は彼に責任を負わせます。私たちが不忠実でも、お～神はとても忠実なお方です。私たちが不忠実であっても、私たちは皆、ある時、不忠実であったとしても永遠にご忠実な唯一の方への信仰を失うようなことがあってはならないのです。つまり、私たちの信仰は、決して自分の失敗の基づいて成り立つものではありません。皆さん、聞いていますか？ 私たちの信仰は、常に父なる神に基づくものでなければなりません。とてもご忠実な、私たちの永遠の父、イエス・キリスト。私たちは皆、私たちの信仰にしっかりと立つ必要があります。サタンは既に敗北し、やがて彼の敗北が必ず私たちに与えられます。「ローマ人への手紙 16 章 19 節 20 節」、神の御言葉をお読みします。

ローマ 16

19 あなたがたの従順は皆の耳に届いています。ですから、私はあなたがたのことを喜んでいますが、なお私が願うのは、あなたがたが善にはさどく、悪にはうとくあることです。

20 平和の神は、速やかに、あなたがたの足の下でサタンを踏み砕いてくださいます。

これが神の御約束であり、私たちは神の御約束にしがみつくと同時に、この約束の成就を待ちながら、今も続く戦いのことも忘れてはなりません。この宣言は真実です。ちなみにこの宣言もそうですよ。なぜなら、私たちはパートタイム・クリスチャンでいる余裕はありません。でしょ？ 敵も悪魔もフルタイムです。昼も夜も。彼らは決して眠らない。そして、私たちは御霊において、決して眠ってはいけません。

神の御言葉が、私たちを助け、私たちを守ります。イエスを私たちの守護者とすることで、この敵を倒し続ける必要があります。ご起立ください。祈りましょう。

天の御父よ。主よ、御言葉に感謝します。それが私たちに必要なのです。私たちがもっと御言葉において過ごす時間を持てるよう心を砕き開いてくださいますように。私たちが倒れたとき、主よ、あなたはご忠実に引き上げてくださることを、私たちは知っています。そのことに心から感謝します。主よ、私たちはあなたに依り頼みます。私たちにはそれが必要だからです。どうか聖霊を与えて下さり、この敵が既に敗北したことを知りながらいつもあなたに思いを寄せ、今週を乗り越えられるよう祈ります。私たちはあなたを愛し、あなたを讃えます。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7